

2008年6月28日(土) 熊日新聞に掲載！

認知症相談の「プロ」を

菊池市で講座開講 地域独自の人材養成

地域で相談員や学習会の講師となる「認知症アドバイザー」の養成を目的にした講座。菊池市



認知症の人と共にくらす会「ぎくち」（曾山直宏会長）と菊池市は二十
六日、地域で認知症の相談員や学習会の講師となる「ぎくち認知症アドバ
イザー」を養成する講座を開講した。七回の講義と、老健施設などでの実
習を予定している。

県高齢者支援総室によ
ると、地域での認知症の

理解を深めるため、核と
なる人材を市町村独自で
養成するのは先駆的試
み。講座には同会の会員
ら四十六人が申し込ん
だ。

同日夜は市社会福祉会
館で開講式と第一回講義
があり、菊池中央病院の
脳神経外科医でもある曾
山会長が「認知症の医学
的・心理的理解」をテー
マに話した。

曾山会長は主に①アル
ツハイマー②脳血管性
③レビー小体型④前頭
側頭型（ピック病）の、
認知症の四類型を説明。
「レビー小体型は幻視・
幻覚を伴い転倒しやす
くなる」「ピック病は反社
会的になり万引きなどを
繰り返すことがある」な
ど、それぞれの特徴を分
かりやすく説明した。今
後は認知症高齢者の生活

支援や家族の理解などを
テーマにした講義があ
る。

講座修了者は、別に市
の研修を受けることで厚
労省などが進める「認知
症サポーター百万人キャ

ラバン」の講師役「キャ
ラバン・メイト」にもな
れる。菊池市ではキャラ
バンの活動も活発で、同
日は限府の菊池郵便局で
サポーター養成講座もあ
った。（太路秀紀）